

## 平成 27 年度 第 2 回札幌市入札・契約等審議委員会の審議概要

### 1 開催日時

平成 27 年 8 月 4 日（火） 15：00～16：30

### 2 開催場所

札幌市役所本庁舎 14 階 1 号会議室

### 3 出席者

#### (1) 委員

蟹江委員長、阿部委員、中川委員、武者委員、山本委員

#### (2) 札幌市職員

財政局管財部長、財政局工事管理室長、財政局契約管理課長、財政局工事契約担当課長、財政局技術管理課長、財政局建築設備検査担当課長、水道局総務課主査、病院局経営企画課長、交通局総務課長 他 7 名

### 4 次第

#### (1) 開会

#### (2) 委員長あいさつ

#### (3) 報告事項

ア 工事等発注状況について（平成 27 年度 6 月末）

#### (4) 抽出工事等の決定・審議

#### (5) その他

#### (6) 閉会

### 5 審議概要

#### (1) 報告事項

【委員長】 平均落札率がほぼ全てで低下しているのはなぜか。

【札幌市】 土木工事積算基準が改定され「現場管理費」及び「一般管理費」が増額となり、本市の最低制限価格の算定式上、最低制限価格率が低下し平均落札率に影響を与えたと思われる。

【委員長】 平均落札率は低下しているものの、設計金額そのものが増えているため実質的な受注金額は増加しているということか。

【札幌市】 お見込みのとおり。

【委員】 基準改定は品確法の改正を受け、受注者が適正な利潤を確保するために行われたものか。

【札幌市】 お見込みのとおり。特に一般管理費については人材の育成に必要な項目が多々組み込まれており、品確法の理念を実現するために重要な改定であったと捉えている。

【委員】 下水道工種が他の工種より平均落札率が低下しているのはなぜか。

【札幌市】 くじ引き発生率が上昇していることから、他工種に比べ競争性が高まった結果と捉えている。

【委員】 業務の随意契約について、件数・契約金額ともに大きく減少している要因はなにか。

【札幌市】 少額の建築設計が減少したことに加え、積算基準の改定により設計金額が増え、随意契約から競争入札の対象となったこと等の要因が考えられる。

(2) 抽出工事等の決定・審議

【委員長】 低入札価格調査の段階で元請・下請契約についても確認しているとのことだが、しゅん功後の確認は行っているのか。

【札幌市】 工事施工中において中間検査を行い、当初の計画どおり労務費を適切に支払っているか等について確認している。また、しゅん功後、全ての支払いが終わった後にも確認している。

【委員長】 成績重視型において、参加要件によっては基準点を下げた運用をしているが、当初の基準点を活用した方がより大きなインセンティブ効果を期待できるのではないか。

【札幌市】 より競争性を重視し、参加可能者を確保している。

【委員長】 品質確保という制度の趣旨からは、参加可能者数の下限に固執しない柔軟な運用が必要なのではないか。

【委員】 十分な競争性が働く案件まで 20 者以上を確保する意義は少ないと感じる。

【委員】 全ての案件について品質確保を重視し、基準を厳しくすべきかどうかは議論の余地があると思われる。

【札幌市】 競争性の確保と品質確保のバランスは検討すべき課題と捉えている。

(3) その他

次回の抽出工事の選定は中川委員が行うことを決定した。